

**ml**  
MUSIC LIFE MAR. 1998

PLANET  
ROCK  
REVIEWS  
MAGAZINE

ミュージック・ライフ

1998年3月15日発行 毎月15日発行  
定価 480円 送料別  
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1  
1998年3月号 発行所 音楽雑誌編集部

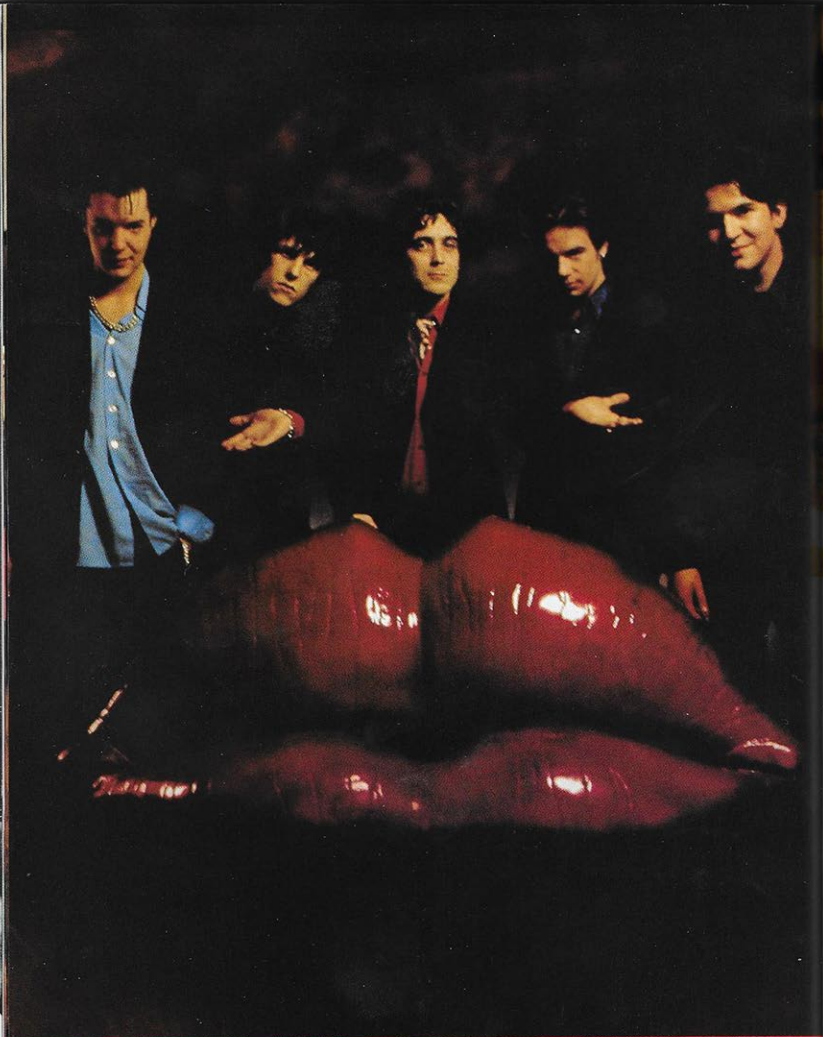
3

360度パノラマ企画  
全方位解体  
スカコア・マニュアル

第3期突入！「究極のアメリカン・バンド」の現在

**VAN HALEN**

RADIOHEAD  
THE BLUETONES  
ELCKA BLUR  
PRODIGY  
SUMMERCAMP  
THIRD EYE BLIND



# ELCKA

「ロッキーマスター」のしゅありません。でもそれに適する「曲」が、もしもいたら彼らの「華」には隠されているのかもしれませんが。「イギリス的すぎるバンドは好きになれない」なんていう発言が、かえって至極イギリス的（笑）なつたりもする自信家新人。その精もしすぎる語りっぷりはp.148巻頭のこと。

pic: Sacha Teroni



# e l c k a

<L to R> マット・バーカー (key)、ハロルド (vo)、ローズ (b)、マーカス・サンフォード (g)、ダーレン・ペリー (ds)

「今すぐ大評価されなくなってもかまわない。いずれ僕たちの時代が来るってわかってるんだから」ヴォーカルのハロルドは、そう言って不敵に笑う。英国流のダンディズムと大胆なドラマ性、耽美的なまでのデリカシー、あけすけなくらいの率直さ——そんな趣向なものを併せ持つエルカの音楽は、確かに熱狂的に受け入れられるか、まったく無視されるかのどちらかに違いない。しかし、彼らのスタ—然とした風貌と確信に満ちた物言いを無視することはむずかしい。ならば熱狂的に受け入れてみよう。3年後には、あなたの先見の明が踏えられることになるかもしれない。

——エルカがインディからレコード・デビューしたのは'95年ですが、メンバーは5年以上のつき合いになるそうですね。  
ハロルド (以下H): もっと長いつき合いだよ。僕たちは前世から一緒だったんだ (笑)。いや、何人かとは学校の時分から一緒なんだよ。今もそうだけど、ずっとひとつ屋根の下に暮ら

して、昔からギャングみたいにつるんでいたんだ。一緒に音楽をやるようになってからはまだ5年かそこらだけだね。

——このバンドに入る前は何を?

H: 僕は俳優だった……正確には演技の訓練を受けてたんだ。小さい頃から俳優にならなくて、演技の勉強のために入った学校でダンスを学んでいたドラマ— (ダーレン・ペリー)に出会ったのさ。ところが、そのうちポップ・ミュージックへの愛が目覚めてしまっね。

——そのきっかけという?

H: 子供の頃から音楽に囲まれてはいたんだけど、クラシックがメインだった。で、14、15歳のとき、当時のガールフレンドがJ2、デヴィッド・ボウイ、ロキシー・ミュージック、ドアーズといったアーティストを教えてくれたんだ。突然そんな音楽を聴き始めて衝撃を受けたよ。すごく新鮮でイキイキしていてインスピレーションにあふれていたから。それまで憧れていた俳優は人の書いた言葉を読んだり他人の真似をしているだけなのに、音楽

なら演技することも自分自身の脚本を書くこともできるんだ。その方がずっとエキサイティングじゃないかって思ったのさ。

——音楽をやるのが目的で集まったバンドというのとは違うわけですか。

H: 全員それぞれ子供の頃からプレイを始めてきちんと基礎を積んでいる。だけど、音楽をキャリアとして考えたことはなくて、もっと独自の世界に没頭していたんだ。僕たちは共同生活をしていたし、サウス・ロンドンにクラブを持っていて、それをやりくりすることがすごく刺激になっていたし。

——共同生活って、どのような?

H: 小さいところにいつも20人ぐらいの人間が入り出してた。音楽があふれて、しょっちゅうパーティやってて、近所はカンカンだったな。イマジネーションにまかせて部屋を火山の内面みたいにペイントしてあたり、セックス、ドラッグ、アートなど、とにかく面白いのなんでもアリみたいな環境だった。

——なんだか70年代のヒッピーのコミュニ

みたいですねえ。

H: そうだろうね (笑)。まわりにはアーティストや映画制作者など面白い人たちがいっぱいいたよ。僕たちのクラブでは友人のフィルムを映写したり絵を飾ったり、音楽以外にもクリエイティブなことがいろいろできた。ロンドン郊外の暮らしってすごく退屈なんだよ。みんな同じカッコして、8時半に起きて仕事に行ったりうちでコチコチかまったり生活…僕らはこの家で今まで育ってきたのは正反対の生き方をしようとしたんだ。退屈から逃れるために、エキサイトできそうなアイデアにはどんどん飛びついていった。この家はそんな実践の場だったんだ。

—それがバンド結成に至るいきさつ?

H: この世の中で最高のグループになるとやろうじゃないかってことでみんなの意見が一致しなかった。それが僕たちのアドナドリンの向かって新しい方向だった。何よりも素晴らしいアルバムを出し、できる限り多くの人々を感動させることのできる、最大にして最高のバンドになるっていうのがね。

—音楽テストはみんな一致していたの?

H: ものすごく広範囲な興味を持っているという点でね。オアシスみたいなビートルズ一本線なで、やらないことを制限してまわりの知性の欠如とか思えない。音楽はパッパ

ともその間ずいぶん曲を書いたけどね。

—ファースト・アルバム「スーパーチャージャード」は発売後レコーディングされたんですね。

H: うん。曲はほとんど以前に書かれていたものなんだ。だから過去数年の総括であるとともにバンドのイントロダクション的な内容になっている。来月にレコーディングを始める予定のセカンド・アルバムはもっとコンセプト指向の焦点の定まった作品になるだろう。—曲作りは全員でやっているようですが、

H: 歌詞は僕が書くけど、音楽に関しては民主的。全員集まって書を出しながら形にしていく。全編やその他のこともすべて5人均等。5人あってこそこのバンドだから。リーダーがバンドを率いているって形はあまりにもエゴイスティックでイヤだね。重要なのは歌の内容とプレイがちゃんと結びついて、音楽と歌詞が共鳴してるとことなんだ。みんながパランスを取ってお互いを理解し合ってるって、バンドの人間関係がしっくりしてこそ、歌は生命感を持って輝いてくるものだと思う。—でも意見が衝突することもあるでしょう。

H: うん (笑)。しょっちゅう。あまり長い付き合いだから兄弟みたいなもので、喧嘩も口論もよくするよ。だけど、うんと愛し合ってるってことも確か。すごく情熱的な関係だからこそその緊張は避けられないね。

カバルはいいバンドだけど、イギリス的すぎる。今好感を覚えるのはレディオヘッド。世界中で理解できるものを取って、そのスケールの大きさがエキサイティングだ。

—ではイギリス的な表現が目立ったブリット・ポップ・ブームが去って、今の状況はエルカにとっても好ましいと思いますか。

H: そうだね (笑)。ハッキリ言ってエルカにとっては状況はいつだっていい。だって、素晴らしいバンドだったらまわりなんか関係ないから。僕の尊敬するバンドの多くは一夜にして成功を収めたわけじゃない。今でこそ大騒ぎされているレディオヘッドにしてもヴァーヴにしても、デビュー作はボクソクソに言われてた。だから僕たちは焦っちゃないよ。10曲でわかてもらうより、すごいバンドでこれをまぎわかってほしいから。状況なんか気にしてないね。まあ、よくなるはずさ。いざいざでもこの惑星全体にエルカの名前が轟き渡ることになるわけだから (笑)。

—すごい自信ですね。裏付けはあるの?

H: だって信じてないなら意味がない。時間無駄さ。9時から5時までの仕事で苦しんでる感じ。僕らは最高のバンドだと信じてるし、成功に絶対の自信を持っている。ファースト・アルバムはここ10年の間に発表されたデビュー作の最高傑作の一枚だと思う。で、次

ストリングスをふんだんに導入し、甘いメロディを奏でたかと思えば、突然牙を向いた狼のように荒々しいヴォーカルが襲いかかる…。危険な香りをポンポン匂わせるエルカのサウンドはまさに美女と野獣の出会い。細身のスーツでビシッと決めた狼達の声を聞け。

インタビュー／文 沼崎敦子  
pic:Sacha Teulon

## いずれイヤでもこの惑星全体にエルカの名が轟き渡ることになる!

から始めて今に至るまでの巨大な世界なんだ。デス・メタル以外はなんでも好きな僕たちの幅広い音楽への愛を反映させた作品を作りたい、というのがつねに根本にあるんだ。—ところで、エルカってなんですか?

H: あんなでさんざん考えたり挙げ、プレーとかスウェードとか意味のある名前はようしてと、ひとり1文字ずつ持ってきたのを並べてみてエルカにしたんだ。後から古代ギリシャの言葉で「人生の流れ、スウェード語では「すべて」という意味があることがわかった。なかなかの選択だろ? (笑)

—メジャーのアイランドと契約したものの、以前のマネージャーとのトラブルのためしばらく活動が思うにまかせなかったそうだが、

H: マネージャーというより高利貸しだぜ。インディ時代にもっと世話になったんだけど、メジャーと契約したと知って英大金額を要求してきて裁判沙汰になったんだ。僕たちはその間ポルトガルに身を潜めていて、何か月も活動に足止めを食ってしまっ。もっ

—作曲上インスピレーションを受けるのは?

H: 個人的には絵画から多くのインスピレーションを受けるね。シュールレアリスムのブルトン、ダリ、ミロ、それからダイスト、シチュエーションリスト、シュールレリズムが面白いのは自己の意識と無意識の関係を理解し最初期の運動だから。僕はそれを音楽を通して表現しているバンドだと思ってる。他にもたくさんある。スコセッジ、グリーンウエイ、ボランスキーといった監督の映画からの影響だよ。音楽ばかりに陥らないようにしているんだ。一般的なようになって進化したくないから。

—そういう深遠さを持った世界を若いリスナーはちゃんと理解できると思いますか。

H: もちろんだよ! 広い影響を取り入れるというのは複雑にすることじゃなくて、よりシンプルなビジュアルなものにすることなんだ。平凡なフレーズで人の心に触れない、一行でガツンとね。深い感情を持ったものだけにそれができるんだ。いちばんイヤなのはイギリス人だけにわかる内輪受けの表現さ。プレーと

のアルバムはさらに素晴らしいんだからね。モリッシーとアメリカ・ツアーをやったときも、観客の熱狂的な反応に確信を強めたよ。—ところで、いつもスーツを着てるのか。

H: ハハハハ (笑)。いや、ペットのものがあつてないけど。ドレスアップするのは好きだよ。僕たちはダンスリズムの素晴らしい伝統を継承しているんだ。この言葉はとも理解されて、もったいぶつたわどらしいカッコを思い浮かべられちゃうんだけど、ダンディっていうのはスタイルに執着することなき。バンドを脱して観客とまっぴら同じカッコだったらシラケちゃうだろう? 僕たちはもっと極端にいたいんだ。

—資料には、ミルクを買いに行くにも……

H: スーツを着てるって? (笑) いや、朝目が覚めて、おっとミルクがないぞ、じゃあスーツ着なっちゃ……ってうんじゃないんだ。ジーパンとかスニーカーで持ってないから、僕らしかカッコするだけ。それでミルクを買いに行く。裸だつたら寒いぞ? (笑) (笑)



### マン・オア・アストロマン

メイド・フロム・テクネチウム  
/1000X

バンド名 APORU-602  
2,218円 売 2,548

ROCK

CMチャートで話題のシカゴ出身の4人組ガレージ・サーフ・バンドの本邦デビュー作。この道中なかなかの大人らしく、ディープオのような衣装に身を包み自分たちをエイリアンと言い張り、'92年デビューにしてすでに7枚もアルバムをリリースするという偉業をしてくれている。しかしそこは、かつてスティヴ・アルビニを好み、現在でもデルタ72を擁するシカゴ・インディの名門タッチ・アンド・ゴーのバンド。ヒリヒリするようなエッジ、緊迫感溢れるスピード感、叩きつけるかのような破壊衝動を感じさせるビート、どれもこれも現在のガレージ・ロックの1品。ギタールーフと「日本人的バンド対決」を是非やってほしいものだ。(大澤 隆) **B**



### エンブレイス

ALL YOU GOOD  
GOOD PEOPLE E.P.

東芝EMI VJCP-1581  
発売中 2,529

ROCK

何でも、インディ時代にリリースしたシングル曲があったという間に売り切れて、新人不作のイギリスで各社争奪戦が繰り広げられたというホープ、エンブレイス。イングランド北部のリーズ出身の4人組です。基本的にはメロディ指向のバンドですが、ジョン・レノンやデヴィッド・ボウイのフォークっぽい面からの影響が、メロディや選んでいる音色に表れています。やさしく和やかな曲だけでなくこさサイケ。バンド・サウンドなのにシンガー・ソングライター作品に感動が伝く不思議な魅力をたたえています。フロントに立つvo. gが兄弟ということでおアスと何かと比較されがちですが、おアスよりもアメリカ受けしそうな曲ばかりです。(浜西智也) **B**



### エルカ

スーパーチャージ

マーセナリー PHCR-1080  
発売中 2,548

ROCK

イギリスの音楽シーンのめくもくしきは今に始まったことではないが、それでも、こう次々と新しいバンドが生れてくると感心するとうかあされる。ポップ・ミュージックの宿命ではあっても、それはまさに流れに浮かぶ舟の如きもの。今生まれたかと思うや次の瞬間にはもう消えている。せめて記憶の片隅にとどまるくらいは命は惜ませて欲しい。このロンドン生まれの5人組エルカはモリッシーのお節入りとかで注目されているが、5年の共同生活を経てデビューしたとのこと。その間どうやって食ったのかはともかく、個性はありそうだし自信も相当。ナルシスティックなヴォーカルとドラマティックな曲風。『毒』のあもバンドだ。(大貫嘉幸) **B**



### ドーバミン

ドーバミン

トイズファクトリー TFCK-8748  
2,218円 売 2,548

ROCK

2月号のレビューで紹介したビッグ・レッド・シャリ。'90年代前半に始まったバンドは、少なからずグランジの影響下にあるようだ。そんな嵐となった時代の音を吸収し、消化と排出的過程で各々が独自の音を探り合わせバンド独自の音や姿を産み出したきっかけが、'92年結成のドーバミンが混ざり合わせた音はどうやらハード・ロックの王道のようだ。本デビュー作はヴォーカルを前面に押し出す典型的な大衆的ハード・ロックを、グランジを通過した若者4人が今風に演法、といった内容だが、骨太で分りやすい音だが保守的ロック・ファンにも支持されるはず。ちなみに彼らはアメリカで最初ロックを吸収した黒、クリヴランドの出身だ。(安川智也) **B**



### フー・マンチュ

アクション・イズ・ゴア

ポプドール POCP-7278  
発売中 2,548

ROCK

脳天を突き抜けるような性能で軽々しいハード＆ヘヴィじゃないんだよね。この人たちの。腫のすわったリズムとファズのかかったギターが、足元からへとズンズン響き血の流れをドクドクさせるっていうのかな。サックス、モーターヘッド、フェッペリン。MOSなどが引き合いに出される4人組の通算4作目は、プロデュースにホワイ・ゾンビのJ・ユエンガーが迎えられた。これがもう、めちゃめちゃカッコイイ！ 下手すりゃベトナムレトロ・バンドに成り下がりがりなところを、多彩なリズム/ギター・リフとサウンド/ヴォーカルの組み合わせによって生まれる独特の硬直感、重量感とグルーブをもって免れている。ライブで身体揺られた。(赤坂美香) **B**



### TWO(ロブ・ハルフォード)

ヴァイアース

DML DMCR-8287  
2,258円 売 2,548

HR/HM

元ジューダス・プリーストのシンガー、ロブ・ハルフォードとナイン・インチ・ネイルズのトレント・メズナーが合体！ 本作で聴かれるのはメタルとテクノロジーを融合させた、一言で言えばインダストリアル・メタルに近いもので、メタル・ファンにとっては昨年のプリーストの「ジャグレイター」以上の進歩作になりそう。ただ、ロブは超音波スクリーマーと高速ターンテーブルを封印しながら見事な表現力を見せており、トレント・フォワードとは異質な完成度向上に上げている。トレントはエグゼクティブ・プロデューサーとしてアレンジ面に関わっており、随所でプレイもしている。一見冷徹な音のようでありながら、裏側にはやさしい。(山崎智之) **B**